

平成26年度事業計画

1 基本方針

我が国は、人類史上例を見ないスピードで高齢社会を迎えており、国民の、実に5人に1人を65歳以上の高齢者が占め、また10人に1人を75歳以上の後期高齢者が占めるという社会が到来しています。今後は、世界のどの国も経験したことのない未知の課題に挑戦しなければなりません。

高齢社会において、シルバー人材センターを取り巻く社会的経済的環境がどう変化するのか。そして、その変化の中でシルバー人材センターがどのような役割を果たすようになるのか。また、役割を果し得るのか。

今後は、このような時代の趨勢を踏まえながら慎重に事業運営に当たる必要があります。

とりわけ戦後の日本を牽引してきた団塊の世代が65歳となり、高齢化は今以上に急速に進むものと思われます。また、65歳まで雇用が義務付けられたことにより、センターへの加入動機や年齢構成も大きく変容していくことが予想されます。

いずれにしても、現在、シルバー人材センターを取り巻く状況は大きく変化、厳しさを増しており、残念ながら、大幅な会員数の増加や事業実績の伸びを期待できる状況にはありません。

しかしながら、取り巻く状況が如何に変化しようとも、「高齢者が働くことを通じて生きがいを得るとともに、地域社会の活性化に貢献する。」という理念の下に、地域に根ざした高年齢者の自主的組織として着実に発展を遂げ、地域社会に果たしてきたシルバー人材センターの役割そのものに大きな変更はありません。

今後も、当センター事業の実情、経営状況を会員、役職員が真摯に受け止め、危機感を共有し、営業強化と経費削減を最優先課題として健全な財政運営の確立を図り、市民から信頼され愛される、魅力あるシルバー人材センターを目指して、引き続き取り組んでまいります。

2 事業実施計画《公1》

(1) 普及啓発活動《公1》〈1〉4－(1)・(5)

シルバー事業への信頼と理解が得られるよう、市民、事業所、行政等に対して、会報、市広報誌の活用やパンフレット配布等により、事業の意義と基本的な理念及び仕組み等を周知するとともに、シルバーの日のボランティア活動の実施等、会員全員による普及啓発を行います。

(2) 安全・適正就業の推進《公1》〈1〉4－(2)

会員の健康維持と就業中の事故防止に向け、安全意識の向上を図るための講習会開催、安全適正就業委員による巡回指導実施等により、「安全は全てに優先する。」との認識を繰り返し注意喚起し、会員・役職員一丸となって安全意識の定着を図ります。

また、公益社団法人への移行を機会に、改めて法令遵守等により社会的信用度を高めていくことが求められており、受託事業契約の適正化（請負・委任）、就業形態の適正化（臨・短・軽）について再認識し推進する必要がある、契約内容及び就業実態の再点検を行い、コンプライアンスの徹底した就業体制の確立に努めます。

(3) 就業開拓・就業拡大活動《公1》〈1〉4－(3)

センターの会員は、希望する仕事に就いて初めて入会して良かったと満足感が得られます。今後の団塊の世代の入会を見据えた時に、これまでとは違った就労内容や条件を希望する会員の増加が予想されます。

また、超高齢社会を迎え、高齢者世帯や独居高齢者の増加と共に様々な形態の家事援助サービスの需要が発生するものと思われま。

このことから、その受け皿となる就業分野の開拓を強化し、センターの普及啓発を推進することで就業機会の拡大を図ります。

(4) 情報提供・相談《公1》〈1〉4－(4)

会員数は、ここ数年横ばい・減少傾向にあり、多様化する顧客ニーズに迅速かつ柔軟に対応し、顧客の満足度を高めるためには、良質な会員を安定的に確保する体制を整備する必要があります。毎月第3木曜日に定期的入会説明会を実施し、また、ホームページによる情報提供や日常的な相談業務の実施により、会員増強を図っていきます。

(5) 社会貢献活動の推進《公1》〈1〉4－(5)

当センターは、平成23年度から公益社団法人に移行し、公益法人としての社

会的地位の向上を見据えた活動が要求されています。

地域社会への貢献を実現する方策の一環として、また、センターの存在を広く地域社会に周知する普及啓発活動として、ボランティア活動を自主的に実施しています。平成26年度も、普及促進月間である10月の第3土曜日を「シルバーの日」として設定し、府中公園・上下駅周辺・病院周辺等の清掃作業など、地域に密着したボランティア活動を実施し、地域の方々に感謝されるだけでなく、元気なシルバーパワーを地域にPRします。

(6) 事務局体制の充実・強化及び関係団体との連携

センターの事業運営は、会員による「自主・自立」が基本となっていますが、センター事業を推進していく上で、事務局の役割は極めて重要です。

現在の事務局体制を検証し、マッチング業務やコーディネートが効率的に行われるよう、より強固な体制を構築します。さらに、各種研修会等に積極的に参加することで、職員のスキルアップを図ります。

また、関係行政機関や他の団体及び各拠点シルバー等との連絡を強化し、情報交換を密にすることで、事業を円滑に推進するとともにセンターの充実・発展に努めます。

(7) 安定財政運営の推進

センターを取り巻く環境は、契約金額及び会員数の伸び悩み、二度にわたる行政刷新会議「事業仕分け」による補助金削減など、厳しい運営状況となっています。このような状況下、事業の安定的な運営を図るべく、財政状況を分析の上、徹底した経費の見直しや事業の効率化により、自主財源の確保に努めるなど、事業運営基盤の強化・安定化を図ります。